

YP-D10

NATURAL SOUND

DIRECT DRIVE TURNTABLE MODEL YP-D10

ヤマハダイレクトドライブステレオレコードプレーヤーシステム

取扱説明書



規格

●ご挨拶

このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーYP-D10をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

YP-D10は、ダイレクトドライブモーターの心臓部とも言えるサーボ回路にクォーツPLL（水晶発振器を内蔵した位相制御方式）を採用し、モーターの回転精度を極限にまで追求して音楽をリアルに再生するシステムとしての完成度を高めております。

また、光電検出式オートストップ回路や高感度トーンアーム、そして重量級ターンテーブルや共振を抑えたキャビネットなどにヤマハの持つプレーヤー技術を結集させました。YP-D10を長年にわたってお使いいただくため、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

●規格

■フォノモーター部

駆動方式	ダイレクトドライブ
モーター	12極24スロットDCホールモーター
サーボ形式	クォーツPLL/FG切換式
クォーツ発振周波数	4.32MHz
ターンテーブル	31cmアルミダイキャスト（重量2.4kg、慣性率350kg・cm ² ゴムシート共） 外周ストロボ1条
ストロボ発振	水晶発振器により動振
ワウ・フラッター(W.R.M.S)	0.03%以下
SN比	62dB以上(JIS)
回転精度(クォーツPLL、ON)	±20PPM
耐負荷特性(クォーツPLL、ON)	600g・cm以下では 回転数変化なし
(クォーツPLL、OFF)	0.003%/g・cm
速度微調整(クォーツPLL、OFF)	±3%

■トーンアーム部

型式	S字型スタティックバランス、ジંバルサポートアーム
トーンアーム全長	320mm
トーンアーム有効長	232mm
オーバーハング寸法	16mm
感度	垂直3mg、水平5mg
アームスタンドベース	亜鉛ダイキャスト

●目次

規格	2
プレーヤー各部の名称(付属品)	3
特長・ご使用になる前に	4
プレーヤーの組み立て	
ダストカバーについて	5
ターンテーブルの取り付け	5
水平バランスについて	5
カートリッジの取り付け	6
トーンアームの組み立て・調整	7
トーンアームの高さ調整	7
トーンアームのバランス調整	8
針圧調整	8
インサイドフォースキャンセラーの調整	8
キューイングレバーの使い方	9
オーディオアンプへの接続	10
スピード調整	10
レコード演奏のしかた	11
故障と思われる時には	12
ブロックダイヤグラム	12
サービスのご依頼について	13

インサイドフォースキャンセラー	カウンターウェイト & ローラーストリング方式
オートアップストップ	非接触光電型速度検出、ソレノイド駆動方式・キューイングレバーと電源スイッチOFFに連動
ヘッドシェル	アルミニウム合金ダイキャスト (交換可・EIA規格・自重11g)
取付カートリッジ自重範囲(付属ヘッドシェル使用時)	2~15g
出力コード	金メッキピンプラグ付 NEGLEX2496コード

■キャビネット部

キャビネット	高密度針葉樹系パーティクルボード 黒酸化粧ウレタンオープンポア塗装
ダストカバー	アクリル製
ヒンジ	フリーストップ着脱可能
インシュレーター	高さ調整可能2段式大型インシュレーター

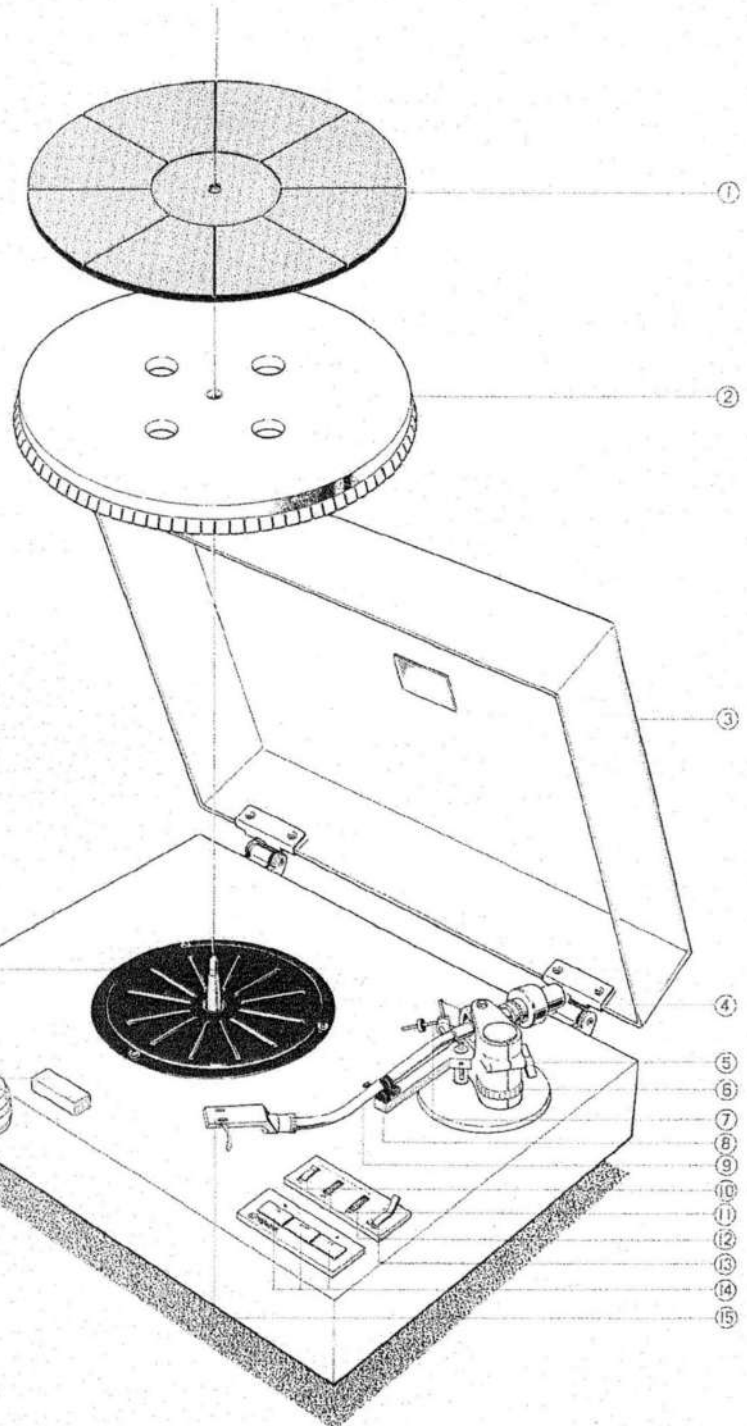
■総合

定格電源電圧	AC100V
定格電源周波数	50Hz/60Hz
定格消費電力	9W
外形寸法	470(W)×163(H)×378(D)
総重量	16kg

*規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

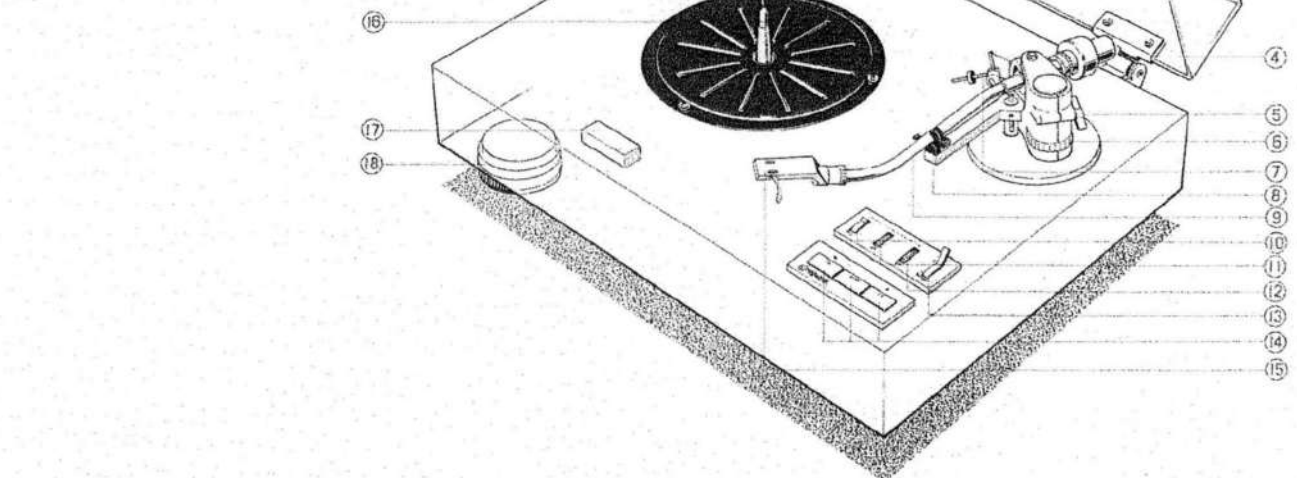
プレーヤー各部の名称

- ① ゴムシート
- ② ターンテーブル
- ③ ダストカバー
- ④ メインウエイト
- ⑤ ロックネジ
- ⑥ アームアジャスターリング
- ⑦ インサイドフォースキャンセラ
- ⑧ アームレスト
- ⑨ トーンアーム
- ⑩ PLL/FG切換スイッチ
- ⑪ スピード調整つまみ (45回転用)
- ⑫ スピード調整つまみ (33 $\frac{1}{3}$ 回転用)
- ⑬ キューイングレバー
- ⑭ スピード切換スイッチ
- ⑮ ヘッドシェル
- ⑯ センターシャフト
- ⑰ ストロボ照明ランプ
- ⑱ インシュレーター



● 付属品

- | | | |
|-------------|----------|---------|
| カートリッジ止のビス | φ = 19mm | × 2 |
| | φ = 16mm | × 2 |
| | φ = 10mm | × 2 |
| カートリッジ止のナット | | × 2 |
| ワッシャー | | × 2 |
| 針先掃除用刷毛 | | |
| ヘッドシェル | 小ドライバー | ウェイトカラー |
-
- | | | |
|----------|---------|--------|
| EPアダプター | メインウエイト | サブウエイト |
| アーム部品ラベル | ピンセット | 6角レンチ |



特長・ご使用になる前に

●特長

●モーター

起動トルクの大きい12極24スロットDCホールモーターを採用したダイレクトドライブ方式です。

●クォーツ発振フェイズロックコントロール

いわゆるQuartz PLL(水晶発振器を内蔵した位相制御方式)で、モーターの回転が水晶発振器の発振周波数を基準にしてロックされますので回転精度を極限にまで上げることができます。本機は、FGサーボ(周波数発電機を利用した制御方式)と切り換えることにより、回転数を微調整することもできます。

●PLL ICをYAMAHAで開発

PLL回路のICは、YAMAHA 独自で開発し、温度ドリフトや回転精度の向上を図っております。

●非接触光電検出方式オートストップ

カートリッジの針先が最終溝に入ると自動的にトーンアームとキューイングレバーが上にあがり、電源スイッチもOFFとなる光電検出式オートストップ回路を採用しておりますのでスムーズなオートストップ動作をおこなっております。

●重量級ターンテーブルとゴムシート

ターンテーブルは重量2.4kg、慣性能率350kg-cm²(ゴムシートを含む)と大きく、ワウフラッターを極限まで抑え、滑らかな回転を得ております。

●1本縞ストロボパターン

ストロボライトは水晶発振周波数を分周(精度を維持しながら低い周波数に変換する)して点灯するため、電源周波数の変動による縞目の流れがなく、回転数を切り換えても分周比率を変えることによって1本縞で調整できます。

●高感度トーンアーム

高感度S字形ジナルサポートトーンアームは、垂直初動感度、3mg、水平5mgと高い感度を得ています。またトーンアームをハウリングや共振から守る重量級アームベースやアルミ合金ダイキャストシェルなど強度とハウリング対策に万全な、音質を重視した設計です。

●高密度パーティクルボードのキャビネット

針葉樹系高密度パーティクルボードのキャビネットとダブルダンピング構造の大型インシュレーター。そして1.5kgの重量級底板などハウリング対策に留意しております。

●その他

金メッキされた出力用ピンプラグ、操作し易い大型プッシュボタン、そして人間工学を追求した操作性とヤマハならではのデザインなどYP-D10は数々の特長を備えております。

●次のことにご注意ください

■電源電圧は定格の100ボルトでご使用ください。

■直射日光や火気の強い場所、湿気の多い場所に設置することは避けてください。

■スピーカーシステムの近くや振動の多い場所に設置することは避けてください。床や台はなるべくしっかりした場所を選んで設置してください。

■接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、アンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。

■木製のキャビネット及びダストカバーを清掃する場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。シンナー系の溶剤などは使うことを避けてください。

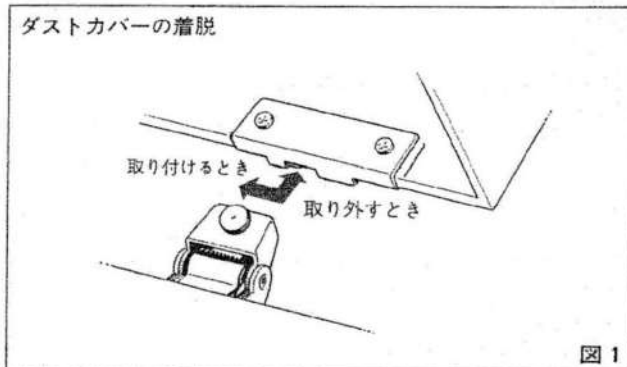
■5ページに説明するように水平に設置してご使用くださるようお願いいたします。

■お買上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には実費をいただくこととなりますので、十分ご注意くださいようお願いいたします。

プレーヤーの組み立て

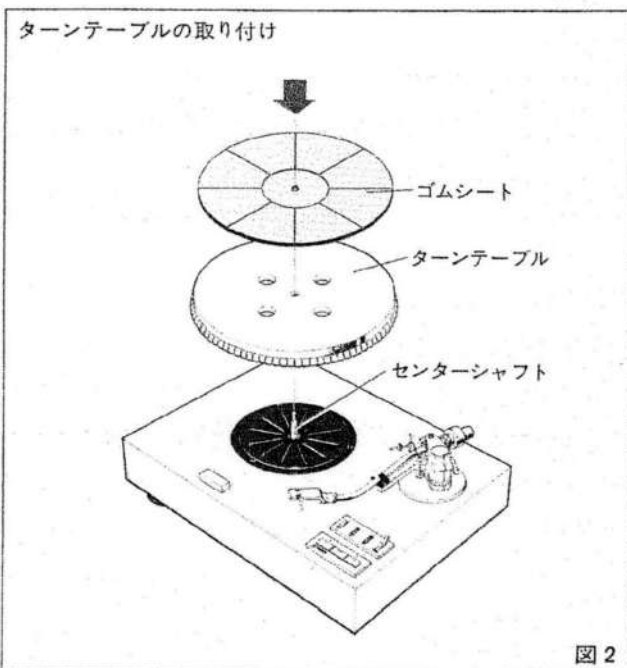
●ダストカバーについて

ダストカバーは、着脱可能になっていますので、ご希望により取り外してご使用になれます。ダストカバーの着脱は図1のように突起と溝を合わせて矢印の方向に押しながら取り付けてください。取り外す場合は逆におこなってください。



●ターンテーブルの取り付け

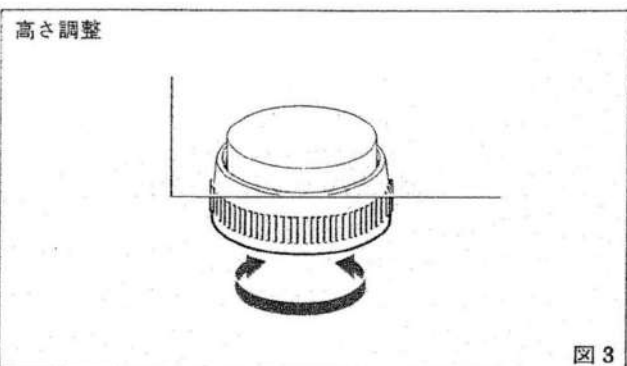
別梱包の中からターンテーブルを取り出し、図2のようにセンターシャフトに静かに差し込んでください。そのあと、ターンテーブルにゴムシートをかぶせます。



●水平バランスについて

プレーヤーの設置で大切なことは、本体を水平に保つことです。

キャビネット底面の4隅に外部振動を吸収するインシュレーターを兼ねた足があり、高さ調整機構が組込まれています。図3のように足を左右に回せば高さを調整できますので水準器などを用いてターンテーブル面が水平になるよう微調整してください。



カートリッジの取り付け

●カートリッジの取り付け

使用できるカートリッジの自重

YP-D10には、カートリッジは付属しておりませんので、お好みのカートリッジをご使用ください。

YP-D10のヘッドシェルには自重2g～15gまでのカートリッジが取り付けられます。

ヘッドシェルへの取り付け

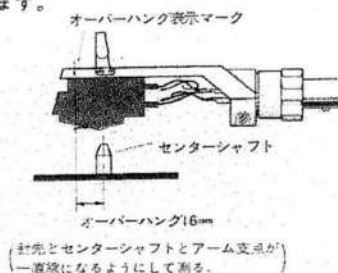
ヘッドシェルにカートリッジを取り付ける場合は、ヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに間違えないように正しく接続してください。(図4)

尚、オーバーハングは図5に表示されているように、ヘッドシェルのオーバーハング表示マークに針先を合わせますとオーバーハングは16mmとなります。

針先の寿命について

針先は一般にダイヤ針を使用しています。針先の寿命はご使用になるレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200～300時間が平均です。針先が摩滅すると音が歪んだりヒリついたりして、レコードを傷める原因にもなりますので、針先は早めに交換してください。

YP-D10のヘッドシェルを用いる場合には、フィンガーフックの手前にオーバーハング表示マークが記してありますので、カートリッジの針先が側面から見てマークの真下にくるようにカートリッジを取り付けてください。オーバーハング寸法が大幅にずれていますと、歪が増えることがあります。



ヘッドシェルのリード線接続図

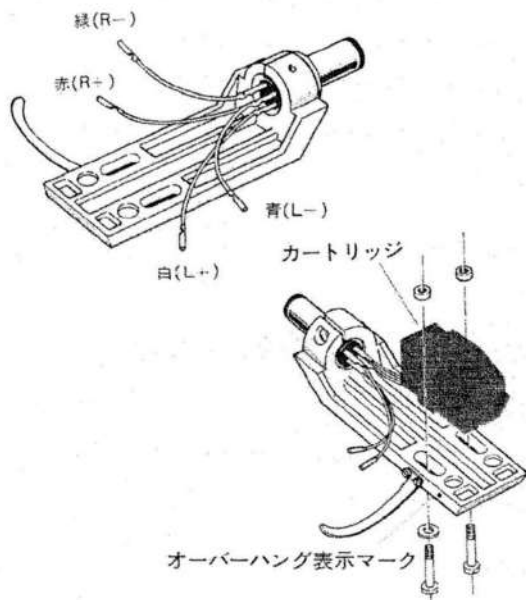


図4

オーバーハング

付属以外のヘッドシェルをご使用の場合は下図のようにカートリッジ針先の位置を16mmにセットしてください。

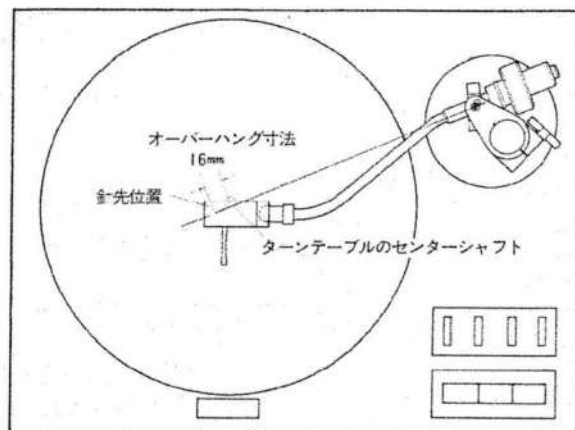


図5

トーンアームの組み立て・調整

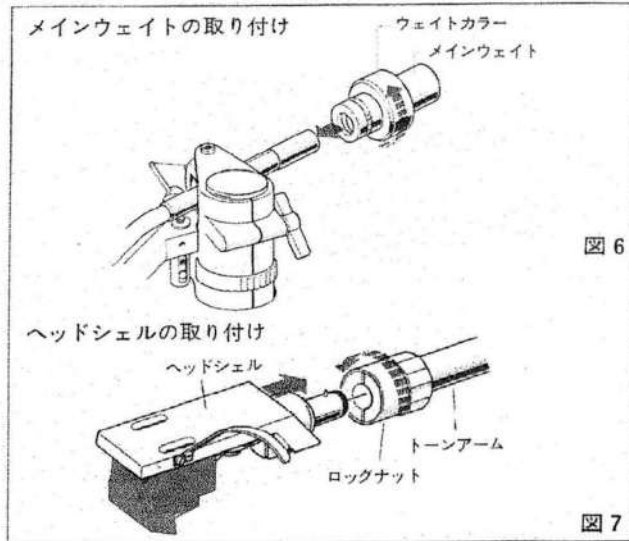


図 6

図 7

● トーンアームの組み立て

※トーンアームの組み立てはダストカバーを取り外した方が楽におこなえます。

- ①別梱包の中からメインウェイトを取り出し、ウェイトカラーをメインウェイトのほぼ中央に差し込んでから矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部に押し込みます(図6)メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストッパーがかみ合い、ウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後へスムーズに移動するようになります。
- ②カートリッジ付のヘッドシェルをシェルの突起ピンを上にしてアーム先端のロックナット部へ差し込み、ロックナットリングを回して固定します。(図7)

● トーンアームの調整

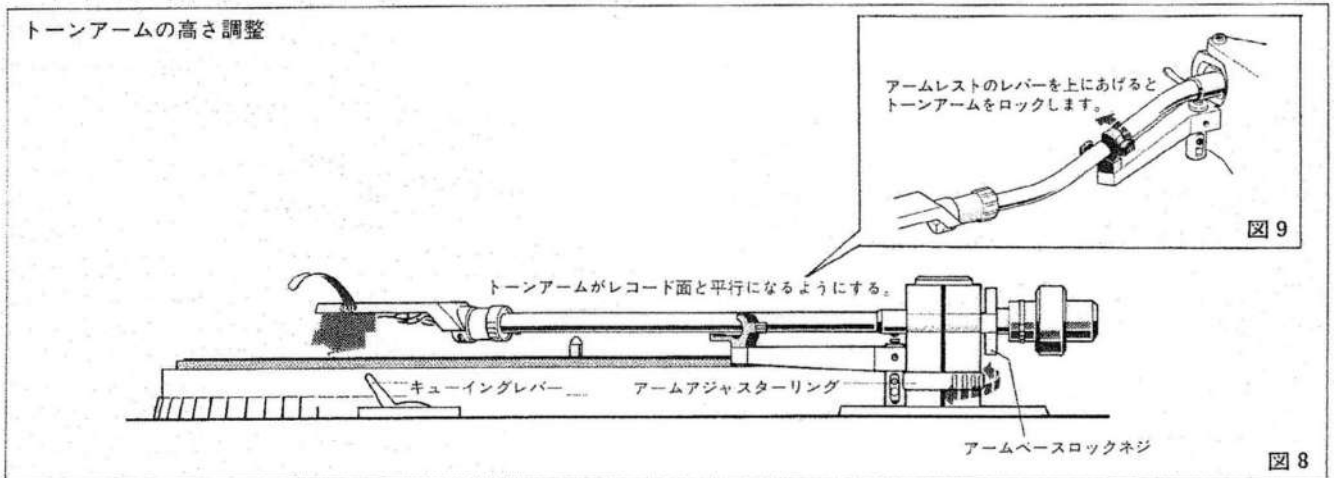


図 9

図 8

トーンアームの組み立てが終了したら、①高さ調整→②バランス調整→③針圧調整→④インサイドフォースキャンセラーの調整の順にトーンアームの調整をおこなってください。

① トーンアームの高さ調整

- (1)キューイングレバーを下げ(DOWN ▽の位置)針カバーのあるカートリッジは針カバーを上げておきます。
- (2)ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に置いてみます。トーンアームがレコード面と平行になるよう軸受部のアームベースのロックネジをゆる

めてから、アームアジャスターリングを左右に回してトーンアーム全体を上下に調整し、レコード面とトーンアームの平行がとれましたらアームベースのロックネジをしっかりと締めます。(図8)

※この調整をおこなうときには、針先とレコードを傷めないように慎重に操作してください。

- (3)トーンアームの高さ調整が終了したら、トーンアームをアームレストに戻してください。アームレストは(図9)のようにトーンアームをロックすることができます。

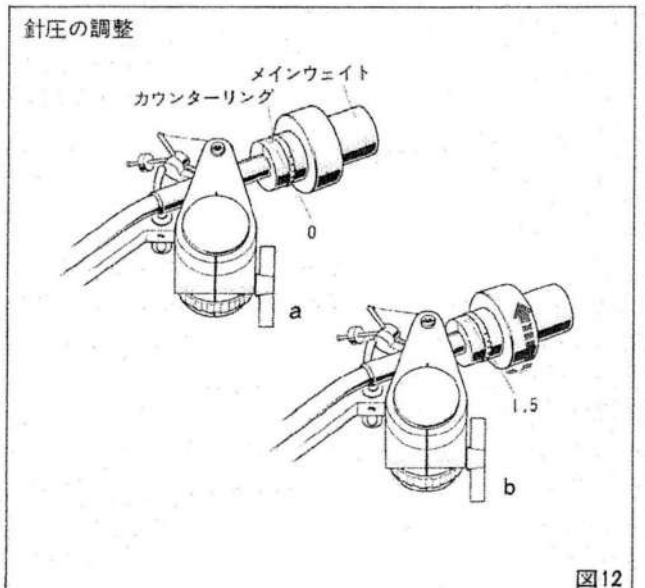
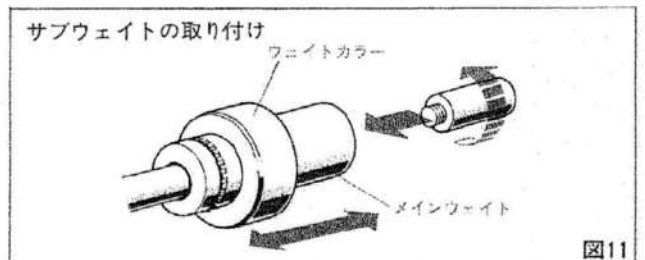
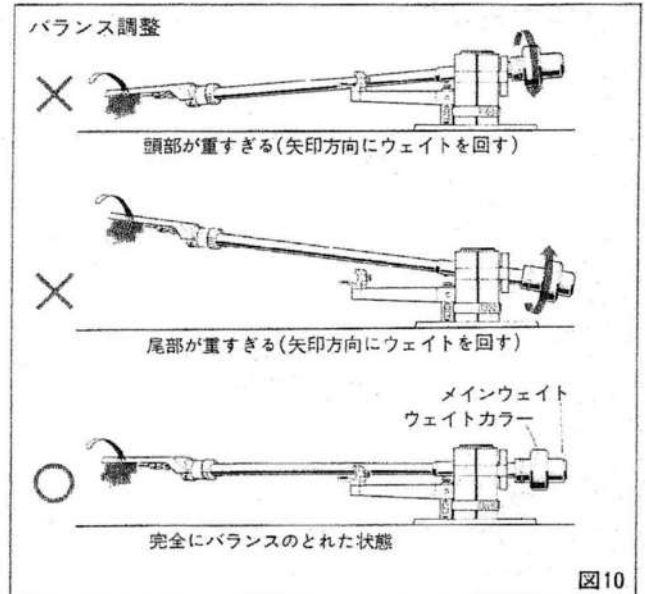
トーンアームの調整

② トーンアームのバランス調整

- (1) キューイングレバーを下げたまま (DOWN▼の位置) 針カバーが付属されているカートリッジは、カートリッジの針カバーを下げ、取りはずしのできる針カバーは、カバーをはずしてください。次に、トーンアームをアームレストから引き出します。
- (2) ヘッドシェルフィンガーから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下ります。
- (3) トーンアームが完全に水平になるように図10を参考にしてメインウェイトを前後させ調整します。メインウェイトはゆっくり回すようにしてください。
- (4) バランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻します。
- (5) メインウェイトでバランスがとれない場合には、ウェイトカラーを前後に動かしてもう一度バランス調整をおこなってください。(図11)
- (6) カートリッジの重量が重くバランスがとれない場合は、付属のサブウェイトをつけ、もう一度バランス調整をおこなってください。最大15gまでのカートリッジを取り付けることができます。(図11)

③ 針圧調整

- (1) 水平バランスがとれた時のメインウェイトの位置を動かさないようにして、メインウェイト前部のカウンターリングだけを回し、カウンターリングの数字“0”をトーンアームの黒ラインに合わせてください。(図12-a)
- (2) メインウェイト本体を回しますとカウンターリングも一緒に動きますので、メインウェイトを図12-bの矢印方向にゆっくり回し、適正針圧の値をトーンアームの黒ラインに合わせます。ひと目盛0.5g、1回転で3gの針圧が得られます。カートリッジの適正針圧が仮りに1.5gならカウンターリングの数字“1.5”をトーンアームの黒ラインに合わせてください。



トーンアームの調整・キューイングレバーの使い方

バイアス調整ウェイト

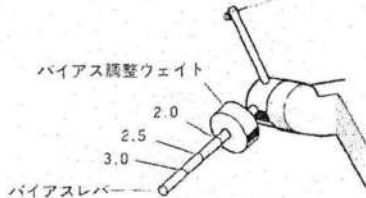


図13

針を降ろすとき

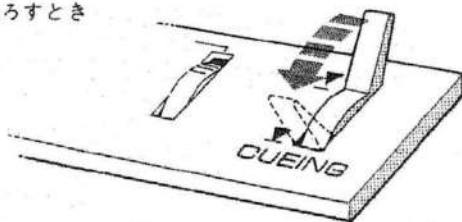


図14

針を上げるとき

1. レコード演奏が終ると自動的にキューイングレバーは、
2. STOPボタンを押すと(▼)位置に戻り電源が切れます。
3. 手で(▼)位置に戻すこともできます。
この場合は、電源は切れません。

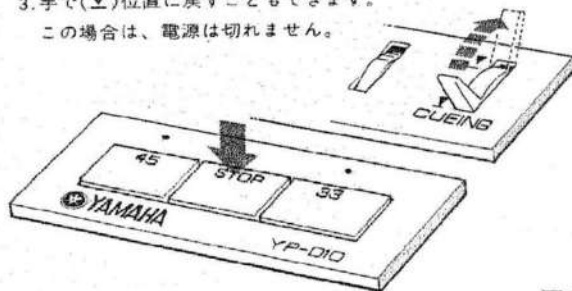
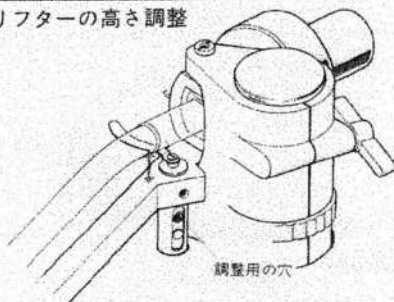


図15

アームリフターの高さ調整



カートリッジなどを交換して、アームリフターの高さを変えたい場合には、付属の六角レンチを使ってキューイングレバーを上げ下げしながら、アームリフターが最適な位置となるように調整してください。
※出荷の際、調整されておりますので通常は調整の必要はありません。

④インサイドフォースキャンセラーの調整

バイアス調整ウェイトの位置は針圧によって決まります。バイアス調整ウェイトを動かしてみるとバイアスレバーに刻まれた溝ごとに軽いクリックがあります。一番奥のクリックが1.0g、あとは0.5gステップで、一番手前のクリックが3.0gのときの位置です。カートリッジの適正針圧が仮りに1.5gなら、バイアス調整ウェイトは1.5gの位置にセットしてください。(図13)

●キューイングレバーの使い方

キューイングレバー (CUEING) は、レコード面に針を降ろすときや針を上げるときに、直接ヘッドシェルに手を触れることなく、トーンアームを昇降させることができ、針やレコードを傷めることがありません。

①針を降ろすとき

キューイングレバーをUP (▼) の位置にセットしておき、トーンアームの針先をレコード面の希望位置に合わせてから、レバーを手前にセット (DOWN (▼) の位置) します。(図14) 針先は油圧シリンダーによってゆっくりとレコード面に降ります。

②針を上げるとき

レコードの演奏が終り、針がレコードの最終溝に入るとキューイングレバーは自動的にUP (▼) の位置に戻り電源も切れます。また、レコードの演奏中に「STOP」ボタンを押しても、キューイングレバーはUP (▼) 位置に戻り、電源も切れます。(図15)

- ※1. 電源コードをコンセントから抜いた場合には、キューイングレバーはUP (▼) 位置に戻りません。
- 2. キューイングレバーは手で操作することもできます。
この場合、電源は切れません。

アンプへの接続・スピード調整

●オーディオアンプへの接続

- ①キャビネット背面から出ている出力コードを、L、Rを間違えないようにオーディオアンプのPHONO端子に接続します。白がL（左）チャンネル、赤がR（右）チャンネルです。
- ②出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプのGND端子に接続します。（図16）アンプによってはアース線を接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得ることがありますので、ハム雑音の少ない方を選んでください。
- ③接続するオーディオアンプに入力インピーダンス切り換えスイッチがある場合は、ご使用カートリッジの推奨負荷インピーダンスに一番近い値のポジションにセットしてください。
- ④プレーヤーの電源プラグをACコンセントかアンプの子備電源コンセントに接続します。

●スピード調整

①PLL→ON

本機のPLL/FG切換スイッチを“ON”にセットしておきますと、クォーツロックPLL回路が働いて、ターンテーブルの回転数はスピード切り換えスイッチでセットされたスピード（45または33 $\frac{1}{3}$ 回転）に、ロックされます。（図17）

※PLL/FG切り換えスイッチは常時“ON”位置にセットしておきますと安定した回転数が得られます。

②PLL→OFF

PLL/FG切り換えスイッチを“OFF”にセットしますと、本機はFGサーボ方式となり、スピード調整つまみにより回転数を±3%変えることができますから、ピッチコントロールとして使うことができます。（図17）スピード調整つまみを回しますと、図18のようにターンテーブルのストロボ縞が動きますので使用目的に応じて調整してください。

オーディオアンプへの接続

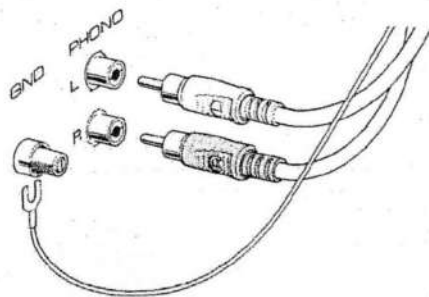
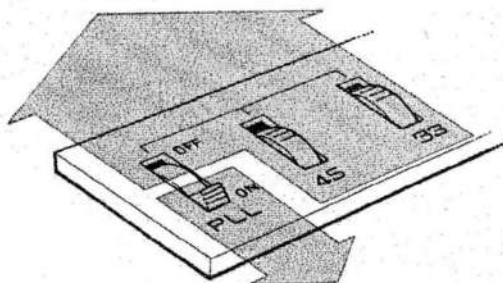


図16

PLL/FG切り換えスイッチとスピード調整つまみ

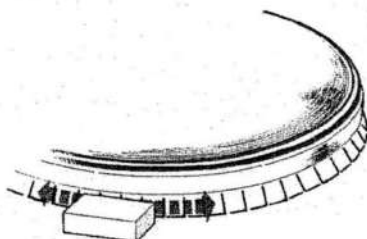
ピッチを変更したい場合は切り換えスイッチをOFFにセットし、任意のスピードにしてください。

尚、規定以外のスピードではストロボの縞は止まりません。



ONのとき
スピード調整はできません。
※回転数→一定

図17



ストロボの縞が
左に動く場合………回転が速い
右に動く場合………回転が遅い
止まって見える場合………正規の回転数

図18

レコード演奏のしかた

●次の順序でレコードを演奏してください

プレーヤーの組み立てと調整が完了したら次の順序でレコードを演奏してください。

1. 接続コードをチェックしてください。

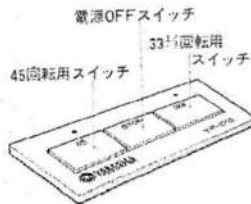
- 電源コード→ACコンセント
 - 出力コード→アンプのPHONO端子
 - アース線→アンプのGND端子
- に正しく接続
されていますか？

2. 接続したアンプを動作状態にします。

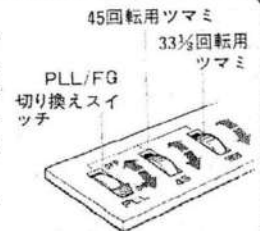
- アンプのFUNCTION(入力切り換え)スイッチを"PHONO"ポジションにセットします。

3. 演奏するレコードをターンテーブルに乗せます。

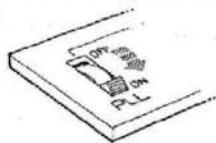
- 45回転EPレコードはEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込みます。
- スピード切り換えスイッチ(45または33)を押すと赤ランプが点灯し、ターンテーブルが回り出します。



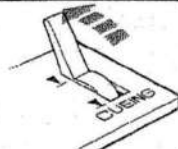
PLL/FG切り換えスイッチを"OFF"にセットしますとスピード調整ツマミでターンテーブルの回転数を変えることができます。
※スピードの変化はストロボで確認できます。



4. PLL/FG切り換えスイッチを"ON"にセットします。



5. キューイングレバーをUP(▼)側にセットします。



6. 針先をレコードの演奏したい場所の上を持って行き、キューイングレバーを静かにDOWN(▼)側にセットします。

7. レコード演奏中

8. レコード演奏が終了とキューイングレバーは自動的にUP(▼)側に戻ります。トーンアームも上にあがり、電源が切れてターンテーブルの回転も停止します。

レコード演奏を途中で止めたい場合には

電源OFFスイッチ"STOP"を押してください。

キューイングレバーをUP(▼)側に戻して電源OFFスイッチ"STOP"を押してください。

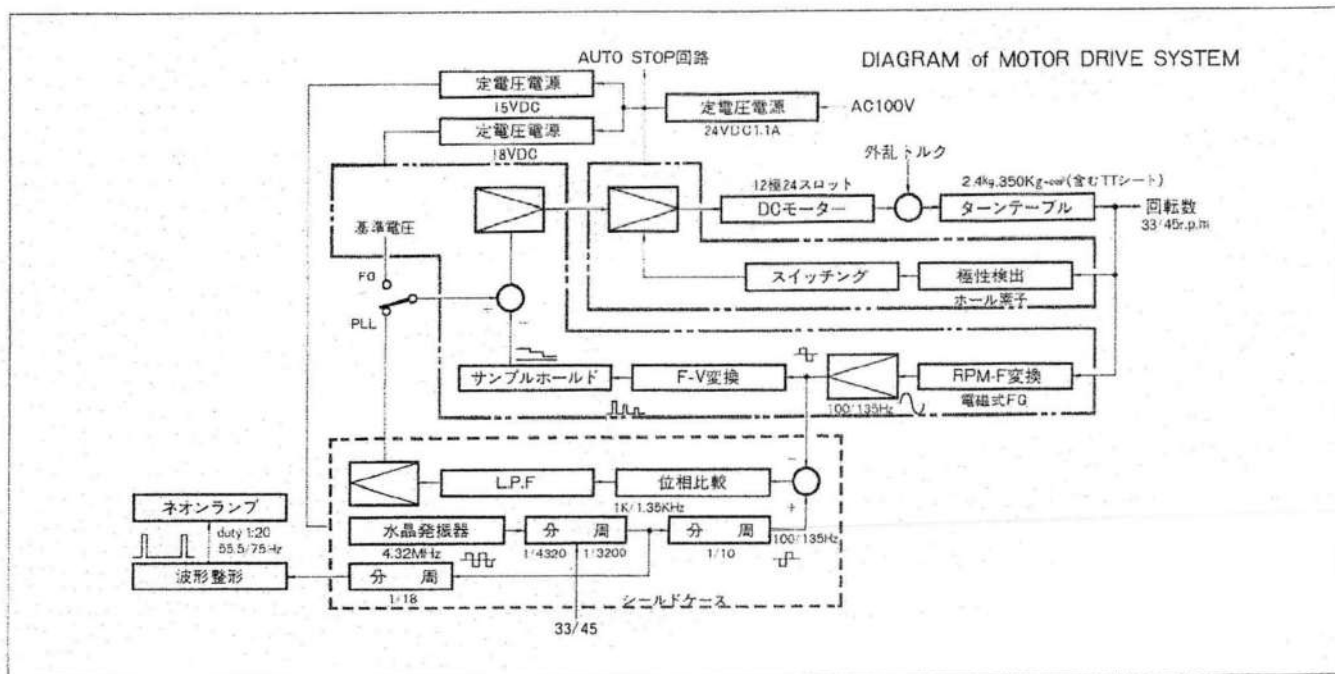
9. トーンアームをアームレストに戻してください。

故障と思われる時は・ブロックダイアグラム

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の

点がございましたら、お買い上げ店又は日本楽器各支店のオーディオサービス係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
スイッチを押してもターンテーブルが回らない	電源コードがACコンセントにしっかり差し込まれていない	コンセントにしっかり差し込み直してください。
ターンテーブルの回転が遅すぎる、または速すぎる(PLL.OFFの場合)	スピード調整ツマミとスピードボスコープで正しく調整してください。	スピード調整ツマミとスピードボスコープで正しく調整してください。
カートリッジを交換した時など0バランスがとれない	カートリッジが重いか、または軽すぎる。	メインウェイトを前後にずらして再調整してください。ウェイトカラーを前後にずらして再調整してください。サブウェイトを差し込むか取り外して再調整してください。
トーンアームが降りない	キューイングレバーがUP(▲)の位置になっている	キューイングレバーの使い方の項を参照し正しく操作してください。
針先をレコード面に降ろしても音が出ない	シュレコネクターの接触不良	コネクタのピンを布でみかいてみてください。
	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせてください。
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげてください。
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください。
カートリッジの腹がレコード面に接触する。	針圧が重すぎる	適正針圧に再調整してください。
	トーンアームの高さが不適当	トーンアームの高さを正しく調整してください。
再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”“バチ、バチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	インシュレーターの高さを調整して水平に設置してください。
	針先にホコリなどが付着している	針先を付属の針先掃除用刷毛などできれいにしてください。
	針先が摩耗している	針先を交換してください。
	レコード自体が傷んでいる、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください。
	針先が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください。
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみてください。



サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚、補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしないですみます。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右下欄のオーディオサービス係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番

号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちのお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■各支店住所 (オーディオサービス係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉中央コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
神戸支店・〒651	神戸市葺合区浜辺通り6-11-36 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL (0222)95-6111
広島支店・〒731-01	広島市紙屋町西原862 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市田町32 TEL (0534)54-4115

日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1
TEL・0534(65)1111
- 東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL・03(572)3111
- 銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14
TEL・03(572)3131
- 渋谷店 〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7
TEL・03(476)5441
- 池袋店 〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL・03(981)5271
- 横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1
TEL・045(212)3111
- 横浜店 〒220・横浜市西区南幸2-15-13
TEL・045(311)1201
- 千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内
TEL・0472(47)6611
- 関東支店 〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内
TEL・0273(27)3366
- 大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16
TEL・06(877)5151
- 心斎橋店 〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL・06(211)8331
- 神戸支店 〒651・神戸市灘合区浜辺通り6丁目1の36
TEL・078(232)1111
- 神戸店 〒650・神戸市生田区元町通2-188
TEL・078(321)1191
- 四国支店 〒760・高松市西宝町2丁目6-44
TEL・0878(33)2233
- 四国店 〒760・高松市丸亀町8-7
TEL・0878(51)7777
- 名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28
TEL・052(201)5141
- 北陸支店 〒921・金沢市泉本町7-7
TEL・0762(43)6111
- 九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL・092(472)2151
- 福岡店 〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL・092(721)7621
- 小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1
TEL・093(531)4331
- 北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター
TEL・011(512)6111
- 仙台支店 〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL・0222(95)6111
- 仙台店 〒980・仙台市一番町2-6-5
TEL・0222(27)8511
- 広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18
TEL・0822(48)4511
- 浜松支店 〒430・浜松市田町32
TEL・0534(54)4115
- 浜松店 〒430・浜松市鍛冶町122
TEL・0534(54)4111
- 海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ
シンガポール・フィリピン